

令和5年度 学校評価報告書（目標設定・**実施結果**）

視点	4年間の目標 (令和2年度策 定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価（4月5日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>・新学習指導要領の趣旨や生徒の特性等を踏まえたカリキュラム・マネジメントに取り組む。</p> <p>・新しい時代に必要となる資質・能力の育成をめざし、授業改善と探究活動の充実を図る。</p>	<p>①授業改善のテーマを設定し、学校全体の授業力の向上に繋げている。</p> <p>②一人1台端末を活用した教科指導及び探究的な学びの更なる充実を図る。</p> <p>③新たな教育課程を踏まえた成績評価について組織的な研究を進める。</p>	<p>①授業改善のテーマを設定し、授業改善研修を行う。</p> <p>②ICT推進委員会と連携し、ICTを活用した授業の実施と実践の共有に取り組む。</p> <p>③成績評価について、各教科と連携し研究体制を確立する。</p>	<p>①授業改善のテーマを設定し、授業改善研修を行うことができたか。</p> <p>②1・2年次生を中心に、端末を授業で活用できたか。（端末活用の頻度が3割以上）</p> <p>③組織的な研究体制を確立することができたか。</p>	<p>①授業に探究のプロセスを取り入れることをテーマに授業改善研修を行った。</p> <p>②スライド配付や課題の配信・回収も含めて、端末の活用を一定程度行った。また、探究的な学び補助金事業を活用し、探究活動を中心に端末活用を拡大した。</p> <p>③前期成績評価における評価のあり方についての課題を共有した。</p>	<p>①毎月の研修内容の授業実践への取り組みとその成果の検証を行う必要がある。</p> <p>②授業の場における活用の機会を更に増やし、ICT利活用を活性化させる。また、補助金事業の活用による成果と得たノウハウを整理して、今後の取り組みに生かす。</p> <p>③学習評価についての研修や協議を十分に行うことができなかったため、引き続き授業研究の一環として位置付ける。</p>	<p>①授業に探究のプロセスを取り入れることについて。探究的な視点を充分に取り入れているかは、実際のところ、担当者によって差がある。 ①②よい授業は共有するなど、全体に広げていくべきである。 ①③研究授業というと、若手の教職員が行うことが多いが、様々な年代の教職員が研究授業を行うことで、全体で様々なスキル共有を図ることができる。</p> <p>③点数として見える部分と表れにくい部分をどのように評価を行っていくのか。</p>	<p>①授業に探究のプロセスを取り入れることを職員全体で共有することができた。各教科の取り組みを共有して学校全体の取り組みに発展させていく必要がある。</p> <p>②発表・プレゼンテーションを中心に端末活用の機会は拡大してきている。さらに日常の学習活動での活用を広げる必要がある。</p> <p>③学習評価についての研修を十分に行うことができなかった。授業研究の一環として位置付ける必要がある。</p>	<p>①定期的な授業改善研修を継続して実施する。</p> <p>②校内における取組事例の共有を行い、より一層の活用を進める。</p> <p>③学習評価について授業研究の一環として位置づける、定期的な研修を行う。</p>
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>・教育活動全般をとおして生徒の主体性や人間性を高め、社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>・生徒理解を深め、個に応じた支援体制を整備し、充実させる。</p>	<p>①学校行事や部活動等を活性化させることにより、生徒の主体性や協調性の向上を図る。</p> <p>②SC、SSWを効果的に活用し、生徒の抱える問題の早期発見に努める。</p> <p>③規範意識や身だしなみについての意識の醸成を図る。</p>	<p>①実行委員の生徒等の意見をもとにした行事運営を行う。 ①部活動や行事において、生徒同士の協働を重視した活動を行う。</p> <p>②教育相談体制を確立し、個別支援を充実させる。 ②生徒情報交換会を複数回実施する。</p> <p>③モラル・マナー教育の充実と丁寧な指導により、基本的な生活習慣を確立させるとともに、規範意識を高める。</p>	<p>①実行委員の生徒等にアンケートを実施し、活動を通して主体性や協調性が向上したという生徒が7割以上いたかどうか。</p> <p>②教育相談コーディネーターやSC、SSWの連携状況はどうであったか。（会議等の回数が年3回以上）</p> <p>③校則や社会規範に対する生徒の理解を深めた上で、時間厳守、挨拶、頭髪マナーの向上等を図り、指導対象を減らすことができたか。</p>	<p>①行事の実施とともに、現実行委員による次年度の計画終了後に実施した。8割以上の生徒が主体性や協調性が向上したと回答した。</p> <p>②県の施策「かながわ子供サポートドック」の実施を受け、SC、SSWとの連携が推進されている。（毎週会議が行われた）</p> <p>②SC、SSWとの打合せを基本的に毎週実施し、5月と1月に生徒情報交換会を実施した。</p> <p>③4月に登校指導実施、各年次で遅刻指導・頭髪指導を行った。HRや全校集会で服装指導を行い、身だしなみについて意識の醸成を図った。</p>	<p>①行事のさらなる充実のためにできることを生徒自身に考えて実行させるための運営を継続する。</p> <p>②「かながわサポートドック」「いじめアンケート」など実施時期が重なっている。来年度の活用法を再検討する。また、生徒情報交換などを踏まえSC、SSWとの連携をさらに深める。</p> <p>③生徒指導全般の指導・支援について、学校としての共通理解を深め、年次や担任による温度差をなくしていく。</p>	<p>①探究のプロセスを取り入れて、生徒に考えさせる。</p> <p>②深く悩みを抱えた生徒をどこまで支援し切れるか難しい部分もあるのではないかと。サポートドックの結果が見えにくい。いじめアンケートについて「実施時期が重なっているため、来年度の活用法を再検討する」とのことだが、サポートドックでの質問と内容が重なっているから、実施や活用法を再検討するか、それともいじめアンケートの結果を鑑みて再検討を考えているのかわかりにくい。</p> <p>③生徒指導全般について年次指導や各担任によって温度差はあるものの、年次集会などで根気良く指導し、より落ち着いた学校生活になってきている。</p>	<p>①行事をコロナ前と同等レベルでの開催できたとともに、新しく取り入れた部分もあった。また、実行委員に主体性・協調性の向上がみられた。</p> <p>②期間は9月と11月という短いスパンであったため、担任など実施側に負担が大きかった。</p> <p>②プッシュ型ということで、これまでなら見過ごされがちだった生徒たちにも積極的に働きかけを行うことができた。</p> <p>②これまでスクールカウンセラー(SC)やスクールソーシャルワーカー(SSW)に相談する機会が持てなかった生徒にも支援が行き届いた。</p> <p>③通学マナーについては、年度当初に登校指導を行い、苦情があればHR等で注意喚起を行う中、年間を通じて数件苦情があった。頭髪指導においては、一定の範囲に収まり、さらに落ち着いてきた。</p>	<p>①新たな清陵の行事文化を根付かせ、さらに生徒の主体性・協調性の向上に向けて、探究のプロセスを取り入れられる箇所に適宜取り入れていく。</p> <p>②来年度は5月と11月に実施予定であるので、今年度よりは負担が減り効率よく進めることができると思われる。</p> <p>③社会規範を守り他者の人権を守る意識付けを継続するとともに、教職員が模範を示して自然と社会マナーを涵養できるように指導体制を築く。 ③生徒情報交換会で学校全体での情報共有し指導する。また、職員向けの研修を取り入れ、教育相談の充実も図っていく。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策 定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価(4月5日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	・学校外の教育力の活用や個別指導を充実させ、個々の生徒のキャリア意識を高め、希望する進路実現を図る。	①探究的な学びについて、学校全体の取組としての位置づけを一層明確にし、自らの進路につなげるように支援する。 ②上級学校への進学意識を向上させ、一般受験の生徒を増やす。	①「総合的な探究の時間」を通じて学びのスタイルを身に付けさせるとともに総合型選抜にもつなげられるように支援をする。 ②3年間を見通したキャリア教育を実践するとともに学校外の教育力の活用方法を具体化する。	①生徒による授業評価項目「自らの考えを広げ深めることができた」が90%以上か。 ①総合型選抜の受験型受験者数が昨年より増えたか。 ②講演会や報告などで生徒へのフィードバックや意識付けができたか。	①一年間の流れを見直すことができた。さらに評価についても検討を始めた。また、生徒による授業評価の結果は「とてもあてはまる」+「ほぼあてはまる」と回答した生徒が1年次95%、2年次91%と目標を達成することができた。 ②自己診断テストや職業ワークを実施して自己理解や職業理解を深め将来について考えることができた。4月に外部テストと分析報告会を実施し進路についての意識づけを行った。	①二年間を見通した流れを作るとともに各年次での目標・評価を明確にする。 ②1年次は今年度の流れを参考に実施時期などについて検討し、2・3年次は外部テストの活用方法をさらに考えていく。	①②今年度の本校入試倍率が約1.5倍であったのは、学校として地域からある程度認められていることの表れであろう。 ①取組内容の評価の観点で総合型選抜の受験者数が増えたか否かについて挙げられていた。この点について、結果が見えない。 ②易きに流れず、生徒自身の希望進路に合わせた大学選びを促していくために、全職員が一致した姿勢であるような取り組みができるよう明記するとよいのではないかと。	①②探究を1・2年次で行い、3年次にそれを進学に利用するというを考えて、総合型選抜の受験者の増加を挙げた。今年度、総合型選抜を利用する生徒が増加したこと、一定の成果があった。 ②これまで、生徒の実力に基づいた大学の選び方をきめ細やかに指導することが難しかった。今年度からは全国模試を実施し、自分自身の立ち位置を把握するというを行った。また、教員を対象とした振り返りを実施することで、進路決定の助けになったのではないかと。	①探究をきっかけに総合型選抜だけでなく一般選抜にも活かせるようにする。 ②生徒へのフィードバックだけでなくHR担任や教科担任が指導に活かせるようにする。
4	地域等との協働	・地域や保護者等と連携・協働を図り、信頼され開かれた学校づくりを推進する。	①保育園ボランティアをはじめ、近隣の小中学校との連携を推進する。 ②地域清掃活動等を推進するとともに教育環境の整備・充実を図る。	①長期休業期間を利用して、保育園ボランティア等への生徒参加を促す。 ①近隣の小中学校と連携して、地域祭りへの生徒参加を促す。 ②地域清掃活動等ボランティアへの積極的な参加を促す。	①昨年度より保育園ボランティア参加数が増えたか。 ①小中と連携できたか。 ②地域清掃活動を積極的に行えたか。	①受け入れ保育園が2園増加し、参加生徒数は8人増加、18人になった。 ①近隣の祭りへの参加を部活動の活動と絡めて実施した。 ②清水ヶ丘公園を新たに追加し、より地域に関わる活動として、10～12月に実施した。	①キャリア教育の一環として、体験を重視し、将来の進路選択に生かせる機会とする。 ②地域住民との交流があり、生徒が地域とともに育つ環境や機会をさらに増やす。	①②コロナによる活動の自粛が終わり、文化祭でのPTA出店など、関わりを持つことができてよかった。これからも継続していきたい。 ①②地域での交流、保育園ボランティアなども再開した。本校からの参加生徒も増加してよかった。吹奏楽部など部活動単位での交流など、活動を広げてみてはいかがだろうか。	①②自粛措置の終了により、生徒の活動範囲が幅広くなった。今後、地域とのかかわりを意識して、協働できる場を設定したい。部活動の一端として、より多くの生徒がかかわれる場の提供を設定する必要がある。	①②生徒が積極的にボランティア活動に取り組めるように支援する。
5	学校管理 学校運営	・社会の教育ニーズに対応しながら、安心して学ぶことのできる教育環境をつくり、積極的に情報を発信する。 ・職員のワークライフバランスを推進するため、協働意欲を高め、校務の効率化を図る。	①学校の活動が見えるように映像・画像を公開していく。(HPの充実) ②生徒の学習成績や進路関係書類に係る事故防止及び教職員の不祥事防止に努める。	①教育活動を積極的にホームページに掲載する。 ②毎職員会議前に不祥事防止研修会を実施する。 ②ヒヤリハットにあたる事例を扱い課題意識を共有する。	①清陵ナビで月1回以上の情報発信が行えたか。 ②毎職員会議に実施できたか。 ②全職員で取組む体制ができたか。 ②連絡を密にし、情報共有を図れたか。	①校内の業務体制を整備し直して、ホームページによる情報提示を写真を使い積極的に行った。 ②毎職員会議前に不祥事防止研修会を実施している。 ②第6回の職員会議では、今年度前期の定期試験、成績処理のヒヤリハット事例をまとめ共有した。	①肖像権等著作権の問題に対して十分対策を練る。生徒自ら考えることも必要である。 ②定期テストの実施における何件かのヒヤリハットを今後の糧として、複数人での事前チェック体制をさらに強化し、事故防止に努める。	①肖像権等著作権の問題について。改善策を具体的に検討すべきである。 ②定期テスト実施においては、丁寧な対応をお願いする。事前の対応を検討し、事故が起こらないチェック体制を構築する必要がある。	①学校ホームページの利用により、教育活動の一端などを、受験生や保護者の皆様にお見せできるようになった。本校をより知ってもらえる機会となったと思われる。一方で、肖像権への配慮は重みを増しており、パンフレットやホームページへの写真の掲載など許諾が必須となっている。 ②全体で不祥事防止、事故防止に取り組み体制ができてきたが、年度ごとの人の入れ替わりや非常勤等で常勤でない職員について、指示・連絡が徹底できていない状況が発生した。	①肖像権等著作権の問題についてはすでに来年度の新入生への配付資料にて改訂済みである。安全・安心して使用できるよう、今後とも、注意して利用に努める。 ②ヒヤリハットな事例、事故防止研修会等の内容を非常勤職員に共有する機会を設けるとともに、複数でのチェックを行うシステムを構築する。